

2018（平成30）年度版函館市環境白書（案）への

事前意見に対する回答

NO	意見内容	回答部課	頁
1	【三上委員】		
	クルーズ船の寄港について	環境総務課	1
	鳥類について	環境総務課	2
	環境モニターの年齢構成について	環境総務課	3
	環境モニター報告について	環境総務課	4
	亀田川の整備について	環境総務課	5



白書 頁	P 4	回答部課	環境総務課
1 -	<p>函館市には、毎年数十回のクルーズ船の寄港があり、数千人規模の乗客が降りてくると聞いています。その人数による環境負荷は、無視できないと思います。一方、函館市としての重要な収入源ですので、その意味でも無視できないので、今後、このことをどのように扱っていくか考えていく上でも、情報収集が必要なのではないのでしょうか？</p>		

○ 港湾空港部に確認しましたところ、過去3年度の寄港回数と乗客乗員数につきましては、下記のとおりとなっております。

- ・ 平成27年度 寄港回数 15回、乗客乗員数 33,623人
- ・ 平成28年度 寄港回数 26回、乗客乗員数 50,132人
- ・ 平成29年度 寄港回数 28回、乗客乗員数 52,814人

○ また、今年度は10月末時点で、寄港回数27回、乗員乗客数56,137人となっており、本年10月に若松ふ頭が暫定供用を開始したことから、2020年までに年50回、若松ふ頭が本格的に供用開始される2022年以降は年70回の寄港をめざしているところです。

○ クルーズ客船による環境負荷につきましては、世界的にも課題となっているところでありますが、本市においては、寄港が増加することにより、相当の経済効果が期待される所であり、一方で、観光客によるごみの問題をはじめ、交通量の増加、CO2排出量の増加など、環境への負荷を与える要因も増加するものでありますので、今後、寄港の増加による影響などを見極めるとともに、世界的な動向などの情報収集にも努めてまいりたいと考えております。

2018（平成30）年度版 函館市環境白書（案）への事前意見に対する回答

白書 頁	P 1 1	回答部課	環境総務課
1 -	<p>1つ目,鳥類に関して14種全部がわかっているなら,書いた方が良いでしょう。</p> <p>2つ目,飛来というと,たまたまやってきた意味にもとりかねません,何種かは,繁殖をしており,重要な生息域といえます。</p> <p>次のようにするのはいかがでしょうか?</p> <p>-----</p> <p>少なくとも,ウズラ,エゾライチョウ,オオジンギ,オオタカ,オオワシ,オシドリ,オジロワシ,クマゲラ,クマタカ,コクガン,チュウヒ,ハイタカ,ヒメウ,ミサゴ,ヨタカの16種が,繁殖,あるいは越冬のため飛来が,</p>		

- ご指摘のとおり,「少なくとも,ウズラ,エゾライチョウ,オオジンギ,オオタカ,オオワシ,オシドリ,オジロワシ,クマゲラ,クマタカ,コクガン,チュウヒ,ハイタカ,ヒメウ,ミサゴ,ヨタカの16種が,繁殖,あるいは越冬のため飛来が,」に変更します。

白書 頁	P 6 5	回答部課	環境総務課
1 -	<p>環境モニターの年齢構成が、60歳以上で40%になっています。実際は、65歳（老齢）以上は34.5%ですから、現実比よりもモニターは、少し高年齢が多すぎるかもしれません。もう少し若い人の意見を取り入れるべきではないでしょうか。</p> <p>特に小中学校の意見を取り入れ、改善を加え、彼らにとって魅力ある街にしていかないと、どんどんと流出してしまいます。</p>		

- 環境モニター制度につきましては、平成12年度から創設をしており、市内に住んでいる18歳以上の方に応募いただき、任期を3年とし、環境に関する各種アンケート調査への協力や意見、要望、取組事例などの報告を無報酬でお願いしているところでございます。
- 本年6月に3年に1度の委員の改選があり、現在、85名の方をお願いしており、年齢構成につきましては、本日付けで60歳以上が37.7%と、若干、割合が下がっておりますが、たくさんの若い方の意見を聴くことは大切なことだと思いますので、今後の環境モニター制度のあり方について、検討していきたいと考えております。

白書 頁	P 9 4	回答部課	環境総務課
1 -	<p>具体的な報告が2件のみでした。モニターの方には、もう少し意見を出してもらうように呼びかけてはどうでしょうか。</p> <p>また、1件目は、本当にそういう意図があったかどうかは分かりませんが、字面だけ読めば選民思想的なものであり、掲載に向かないと思います。残念ですが、削除すべきだと思います。</p>		

- 環境モニターの皆様には、年2回、送付している環境モニター通信でモニター報告の呼びかけを実施しておりますが、その中で、紙面のレイアウトや意見募集の表現を工夫し、積極的、建設的なご意見をお寄せいただくよう呼びかけて参りたいと考えております。
- なお、過去の報告状況につきましては、平成28年度が5件、平成27年度が7件、今年度につきましても、これまで5件の報告がされております。
- 1件目のモニター報告につきましては、ご指摘のとおり削除し、P93の表を下記のとおり変更します。

モニター報告 報告内容の分野別内訳

区 分	平成 28 年度	29 年度
地球環境に関すること		
空気に関すること		
水に関すること		
音・振動に関すること	1	
化学物質や健康に関すること		
自然環境に関すること	1	
公園などの緑化，親水空間等に関すること		
町並みに関すること	1	
廃棄物に関すること	2	
環境教育・学習，意識啓発，イベント等に関すること		1
その他		
計	5	1

白書 頁	P 59 含む全体	回答部課	環境総務課
1 -	<p>現在、「ガーデンシティ函館」という方針のもと、道路に花を植える活動が良く行われています。緑化の促進は重要ですし、これらは観光面的、あるいは景観的には良いと思います。しかし、本来の地域の自然という意味では、外来種の花をたくさん植えているわけですから、方向としてはずれています。だから、やめた方が良いと言いたいのではなく、そういう活動も良いですが、本来の地域の自然を維持する活動もすべきような気がします。</p> <p>その中で、亀田川の整備をする活動はどうでしょうか？</p> <p>現在、亀田川が近づけない状態になっています。昔は、川のそばまで下りて散歩が出来たと聞いています。今は、オオイタドリが繁茂し、ドクガの発生場所になったり、オニグルミがアメリカシロヒトリの発生の場となっています。私が個人的に聞いた話では、川沿いに住んでいた方が、洗濯物を外に干していたら、どうもドクガの毛が洗濯物についたらしく、ひどい目にあったという話を聞きました。</p> <p>亀田川は、大きな樹も増えており、今後、気候変動で台風が増えた時に、川が本来の機能を持つのか少し心配な気もしています。</p> <p>国際的な観光地は、やはり川を1つの重要な景観要素としています。地域住民にとっても散歩ができる川というのは良いものだと思います。函館市に住みたいと思う人を増やすためにも、効果があるかもしれません。</p> <p>アンケートでも、水の満足度、公園や広場、快適な街並みなどが、目標値に達していません。亀田川に手をつけるのは、市民へもアピールしやすいですし、その意味でも手をつけるにふさわしい場所だと思います。</p> <p>亀田川は道の管理で手がだしにくいかもしれませんが、整備をして、散歩ができるような雰囲気のある川にするのはどうでしょうか？効果が目に見えやすいのも利点です。川については、助成金などもとりやすいので、うまくやる方法があるのではないかと思います。</p>		

- 水辺と緑は、潤いや安らぎを市民生活に与えるとともに、地球温暖化防止の観点からも、その重要度が高まっている中、アンケート結果では、水の満足度、公園や広場、快適な街並みなどが、目標値に達していない状況となっておりますが、市といたしましては、公園や公共空間など、都市における緑化の推進、河川環境の整備や港の親水空間の整備など、潤いのある水とのふれあいの場は重要であると認識しております。
- 亀田川につきましては、北海道により、川遊び等自然とふれあうことを目的に川へ降りる階段が数カ所整備されておりますが、三上委員ご承知のとおり、北海道が管理する二級河川であることから、本市として整備することは、なかなか難しいものがあります。